

Facul. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 43: 293 (1938).)

4. *P. microspora* (Imai) comb. nov. (= *Psathyra microspora* Imai, l. c. 294.)

5. *P. atomata* (Fr.) Quéf.

なお元來 *Psathyrella* に入れられていたイヌセンボンタケは側系が *Coprinus* 型で、傘に放射狀のひだがある點から別屬として分離し、*Pseudocoprinus disseminatus* (Fr.) Kühner, in Le Botaniste, 20: 156 (1928) なる學名を用いるのが妥當である。

Literature cited

1) Singer, R. Das System der Agaricales. Annal. Mycol. 34: 286-378 (1936).

2) Lange, J. E. Fl. Agaric. Danica 4 (1939).

3) Smith, A. H. Studies of North American Agarics. Contr. Univ. Mich. Herb. 5 (1941).

4) Singer, R. and A. H. Smith. Proposals concerning the nomenclature of the gill fungi including a list of proposed lectotypes and genera conservanda. Mycologia, 38: 240-299 (1946).

5) Smith, A. H. Mushrooms in their habitats, I (1949).

○キヨズミメシダ (新變種) (倉田 悟・行方富太郎) Satoru KURATA & Tomitaro NAMEGATA: A new variety of *Dryothyrium coreanum*.

我々は昨年來相共力して千葉縣の羊齒類を調査研究しているが、東京大學千葉縣演習林(清澄山)にてコウライイヌワラビ(一名タニメシダ)に極めて近似せる、キヨズミメシダと新稱する1羊齒を發見した。自生地は杉造林地内にして灌木としてはクマアジサイが散生し、林床にはミヤマシケシダ・ミドリワラビ・ヒカゲワラビ其他の羊齒類が良く生育しているが、キヨズミメシダは數株見出したのみである。タニメシダとは葉柄が短かく 10-15 cm. 位である事と、葉柄・葉軸に鱗片を密布する點により區別出来るが、根莖・羽片・小羽片等の性質は全く同一である。近縁のオオメシダにおいても葉柄・葉軸の鱗片の多寡は變化があり、この鱗片の多寡も種類を區別する程の性質とは考えられず、此所にキヨズミメシダをタニメシダの1變種として記載する。尙タニメシダは本州では栃木縣にのみ産地が報告されているが、筆者等は未だ栃木縣産品を検していない。

(東大 農學部)

Dryothyrium coreanum Tagawa in Journ. Jap. Bot. 22: 162 (1949).

Athyrium coreanum Christ in Bull. Herb. Boiss. sér. 2. 2: 827 (1902); Tagawa in Journ. Jap. Bot. 14: 105(1938); H. Ito in Nakai, Ic. Pl. As. Ori. 3-3: 255, tab. 91 (1940).

var. *kiyozumianum* Kurata var. nov.

A typo differt stipitibus brevioribus, 9-16 cm. longis, paleis pallide brunneis

vel fuscis, pallidioribus in juvenilibus, ovatis lanceolatis crispato-linearibusque dense vestitis et rachidibus paleis pallide brunneis crispato-linearibus subdense praeditis, dorso dein glabrescentibus.

Nom. Jap. Kiyozumi-meshida nom. nov.

Hab. Prov. Kazusa: Mt. Kiyozumi (T. Namegata, May 1951); ibidem (T. Namegata, July 1951 - type in Herb. Fac. Agric. Tokyo Univ.).

This variety is so similar to the typical form that we cannot distinguish them by the characters of their rhizomes, pinnae and pinnules. But the stipe of *Dryoathyrium coreanum* var. *coreanum* is (20-) 30-50 cm. long, and except the base, almost naked as well as the rachis.

○*Premna staminea* Maxim. とは何か (大井次三郎) Jisaburo OHWI: What is *Premna staminea* Maxim. ?

ハマクサギ属は世界に約 40 餘種知られ、主として熱帯に分布して居る。日本の暖地から臺灣にかけてはハマクサギとタイワンウラクサギの 2 種があるのははつきりして居るが、Maximowicz は 1887 年に屋久島及び奄美大島から *P. glabra* を、臺灣から *P. formosana* を、又琉球から *P. staminea* を記載して居る。

この *P. staminea* Maxim. は雄蕊が長く花外に抽出し、葯の長橢圓形なのが著しいと云ふ。記載によると幼時星毛を生じ、葉は長橢圓形又は稍橢圓形で上縁に鋭鋭齒があり、花部は平坦、小梗は萼より長く、花冠の裂片は他のものに比して不同著しからず、雄蕊は同形で長く抽出し、葯は大きく、黄色の腺点があると云ふ。此の植物は植物名鑑にも引用されず、正體は全く不明であつたが最近博物館で當時に Maximowicz に送つた副標本が整理されたのであるがその中に No. 1669. *Premna* n. sp. ? *P. staminea* Maxim. n. sp. Maximowicz 氏検定) と云ふ手記のある琉球産の採集者のない一枚があり、原記載とよく一致するし、*Liukiu* (Tanaka flor.) とある副標本の産地とも略一致するので、その Isotype に相當すると思はれる。此の標本は *Premna* でなくて、*Calli-carpa* であり、琉球列島に普通な葉の稍厚くて長橢圓形のオホムラサキシキブの一型に過ぎない。正確無比と云はれたマ氏にして、しかもその前の頁にムラサキシキブを取扱っているのであるから、何かほんの一すしたことにこだはつて感違ひをしたのであらう。

○ギンリョウソウの和名 (原 寛) Hiroshi HARA: Japanese names of *Monotropa* and *Monotropastrum*.

ながい間ギンリョウソウと呼ばれてきた植物が、*Monotropa* と *Monotropastrum* という 2 属のものの混りである事を初めて紹介したのは本誌 14 卷 810 頁 (1938) であつた。その時和名については深く考證もしないで、日本では *Monotropastrum* の方が *Monotro-*